

2012年10月18日(木)

文責在大貫友一

第一節 富としての剰余

(1) 富概念の再転換

- スミスの富概念…歴史貫通的な労働生産物(「生活の必需品と便益品」)(p44)
- マルクス…「われわれの研究は商品の分析から始まる」、しかし、特殊歴史性を捨棄された物の有用性(富の質的内容としての使用価値)から議論を開始。スミスの影響か(p44)
- 尤もマルクスの強勢は、使用価値が、資本主義社会においては、交換価値の質的土台になることに、假かわれている(p45)
- 実はスミスは、商業的社会においては、商品の持つ価値の大きさが富を規定するようになる、と認識していた(p45)
- スミスによる富概念の転換…①富=貨幣→富=商品(労働生産物)、②富=ストック→富=フロー(p16)
- マルクスの富概念…①を基本的に踏襲、②にかんして、『批判』では、商品(「ブルジョワの富」)はそれが買手に譲渡され使用に供されると商品でなくなる(p47)、ことが述べられている。→未完品のストックとして把握(p47)。「他人のための使用価値」=自家消費の除外+譲渡以前の商品ストック、という意味に

(2) 剰余の貯蔵とその限界

- 商品ストックとは、売れ残り、余り物であり、富であるどころか不要なものに過ぎないのではないか(p48)(→*1)
- 剰余=不要なもの(貯蔵)→備蓄=必要なもの
- 剰余の貯蔵…①物の耐久性、②人間の欲求、によって制約→剰余の贈与或いは互酬・交換により解除。互酬と交換を通じて、自分にとっての不要物は他人にとっての有用物に転化し得る

第二節 商品交換と社会的再生産

(1) ゲマインヴェーゼンの内と外

- 少なくとも原初の商品交換においては、所持者=自共同体、非所持者=他共同体(p50)
- 共同体(ゲマインヴェーゼン)の意味…社会的再生産を目的とする群像体であり、再生産の自足性によって画される経済的完結体(p51)(人格的共同性、物象的共同性(?))
- 社会的再生産の外部で交換が行われ、社会的再生産を交換が媒介しない=社会の維持・再生産に必要な物の残余つまり剰余が交換(p51)

(2) 商業の分解作用とその障碍

- マルクスは、商品交換が、資本主義においてもなお、ゲマインヴェーゼンの外部にとどまり続けるとは考えていない。「彼〔個々人〕に對立している物象が眞のゲマインヴェーゼン

となつた」(p52)

- 『資本論』第三卷第二十章…①ゲマインヴェーゼン間の商品交換がゲマインヴェーゼン内に、古い諸関係を壊しながら浸透、②「生産を行うゲマインヴェーゼンの性質」によって浸透の程度は左右される→マルクスの時代には、ゲマインヴェーゼンの外部における剰余の交換はまだ残っていた(p53)
- ゲマインヴェーゼンと商業の分解作用との間の論理的関係(ブレナーの所説を導入)、ブレナー独自の解釈(p54)…イギリスとオランダにおける資本主義の成立は、再生産のための資本主義的ルールを意図的に採用した結果ではなく、封建制的社会的所有関係を維持しようとして生じた意図せざる結果
- マルクスは、商業の分解作用への障碍を、協業の効果を期待できる「工・農生産の一体性」(p55)に見出した。しかし、より本質的には「生存の危機」(p56)を避けるための戦略に注目すべき(→*2)
- 「生存の危機」に直面しない限りでの交換はあり得る(剰余の交換)(?)

第三節 〈間〉という外部と商人

(1) 交換過程論と価値形態論

- 商品交換…本来的にゲマインヴェーゼン外部における剰余の交換→資本主義そのものを剰余を視軸として考究する「剰余の政治経済学」(p56)の可能性
- 剰余という視角の有効性が資本主義の起源に局限され、「剰余の政治経済学」の展開が妨げられてきた(p57)…交換過程論を、W-W' から W-G-W' への転化を論じるもの(p57)と理解してきたため
- 交換過程論の描く交換行為(p58)…自分にとっては直接的な使用価値を持っていない商品、自分を満足させる使用価値を持つ商品と引き換えに、手放そうとする→交換過程論から類推(p58)された価値形態論…個人的欲求が単純な価値形態から貨幣形態へと至るなかで変容していくことを説明(p59)→貨幣は媒介手段という見方、W-G-W' という市場像

(2) 商人資本の先行性

- 単純流通的市場像…交換過程論の論理つまり間接化の論理(p59)に淵源(剰余と必要の交換…必要の欠如がもたらす欲求の一致性と緊急性が特定の商品の即時の入手を要請(pp62~63)→欲求の二重の一致の困難→W-G-W')
- 剰余の交換…欲求の充足ではなく剰余の維持のため(p60)。遠くの外来品は富。ゲマインヴェーゼンとゲマインヴェーゼンの〈間〉には空間的広がりがある→直接交換の困難→専業の商人或いは商業組織の存在(間接化の論理とは異質、貨幣なし)(p60、61、62)
- 貨幣に対する資本の、単純流通に対する資本の運動の、先行性を示唆(p62)(→*3)
- ゲマインヴェーゼン内や〈間〉での貨幣関係の全面化のためには労働力の商品化さえも貨幣の生成に先行(p63)(?)

(補論) 社会的再生産と余剰

- 社会的再生産の二つの捉え方…①人間或いは労働者の生存を軸にした捉え方(生活手段と生産手段の再生産、その残余としての余剰)、②物の再生産を軸にした捉え方(生産手段の再生産、その純生産物としての余剰)(pp63~64)
- ②が明るみにした①の論理的難点…労働と生活手段との間の確定的な量的関係の想定は不可(生活手段の量は一定の場所と時間において所与だから、労働と生存とは別の事柄だから)(p64)
- ②の論理的難点…必要の範囲を生産手段の補填に限定。生産手段が生み出す純生産物に必要と余剰の区別を設けない→生存の問題が欠落(p65)

★疑問点★

*1…「未だ売れていない商品」(p48)、つまり商品ストックを、「需要に見合わなかった商品の売れ残り、余り物」(p48)である、と規定することについて。

*2…「ゲマインヴェーゼンと商業の分解作用との間の論理的関係」(p53)の説明について、マルクスの考察の不十分さをブレナーの所説で補うことについて。ゲマインヴェーゼンの歴史的発展段階に規定されていると考えられる「工・農生産の一体性」(p55)という或る意味での生産関係を以て商品交換の破壊的作用の障碍となすマルクス。「生存の危機」を避けるために選んだ「戦略」を以て商品交換の破壊的作用の障碍の内実となす沖。「戦略」という用語について。ブレナーからの引用の解釈。人間の選択がゲマインヴェーゼンの変化にどれほど影響を与えているのか。客観的経済諸法則を重視する立場と人間の主体性(積極的という意味ではない)を重視する立場。

*3…「貨幣に対する資本」の、「単純流通に対する資本の運動」の、先行性について(p62)。ここでの「資本」の意味。「貨幣の資本への転化」(p62)、「単純流通 W-G-W'」の資本の運動 G-W-G' への転化」(p62)に対する歴史的検証になり得るか。

*4. 数式表記. 産物としての労働. 社会としての労働. (生産)

o $W - W' \neq W - G - W'$